

〈論文〉

洋楽歌詞を活用した データベース構想と構築

藤 本 淳 史

要 旨

本研究は、洋楽は教材として成立しないことが前提にある今の風潮と概念に対して、筆者はデータベースを構築することで洋楽が教材として決して劣らないと証明したいとの必然性から始まった。

洋楽にはストーリーがあり、機知に富んだユニークな表現がある。洋楽のストーリー性の魅力は、機知に富んだユニークな表現を無意識に脳内に定着させることであり、筆者はこれを語学学習に利用しようと考えている。

機知に富んだユニークな表現とは何かと考えたとき、筆者は“proverbs and sayings”に着目した。洋楽からであれば、正統派“proverbs and sayings”のみならず、派生した“proverbs and sayings”をも学ぶことができる、これが着眼点だった。下らないと思われてきた派生した“vivid expressions”だが、実は教材として高い可能性を秘めている。派生した“proverbs and sayings”は様々な授業に発展し得る。派生した“proverbs and sayings”を通じて、正統派“proverbs and sayings”を学べるばかりか、独自の“proverbs and sayings”を作りだせるようになり、英語表現の幅は広がる。このため、洋楽と“proverbs and sayings”の融合は合理的であると考ええる。また、洋楽は将来性のある教材となると確信している。

なお、データベースを構築することで次のことが明らかになった。1. 洋楽は少ない語数の“vivid expressions”を好む傾向がある。2. “vivid expressions”自身が持つ特性によっては、洋楽と相性の良くないものもある。“vivid expressions”の持つ特性が分かれば、洋楽で学び得る“vivid expressions”の特性を見いだせる可能性がある。データベースの構築および派生した“vivid expressions”をより集めることで必ず英語教育の一助となる。

キーワード：洋楽, 英語教育, データベース, ことわざ, proverb, saying

1. はじめに
2. 先行研究
3. 洋楽歌詞データベース構築
 - 3.1 データベース構築の方向性
 - 3.1.1 音楽の特性：ストーリー性とユニーク性
 - 3.1.2 生き生きとした表現 “vivid expressions”
 - 3.2 英語における “proverbs and sayings” の存在
 - 3.3 “vivid expressions” の線引き
 - 3.4 データベース作成とその方法
 - 3.5 現在までの作業手順
 - 3.6 歌詞の抽出作業から見えてきたこと
 - 3.7 派生した “vivid expressions” から発展し得る授業スタイル
4. おわりに（今後の方向性・展望）

1. はじめに

本研究は洋楽歌詞のデータベース構築を目指している。この研究に着手するきっかけとなったのは筆者の個人的な経験に由来する。このため、まずはそれについて述べることにする。

筆者が洋楽に出会ったのは小学校の音楽の授業中で、担任の先生が時折洋楽を教材として使ったのがきっかけだった。80年代にはいると、日本では「洋楽ブーム」だった。筆者も洋楽を聴いていたが、そのうち海外の洋楽雑誌の文通コーナーで知り合った海外の方とやり取りをして、テープトレディング（ダビングしたカセットテープをお互いに交換する）したり、同人誌を発行したりした。勿論、これらの作業を全て英語で行った。この経験を買われ、のちに音楽レコード会社で翻訳や通訳のアルバイトをすることができた。学生アルバイトでありながら、世界中から約一万人の音楽関係者が集まる見本市「MIDEM」にも通訳スタッフとして同行することができた。こういう経験から、筆者自身、英語学習に対する洋楽の貢献は

大きいと常々感じてきた。

では、筆者が洋楽を使ってどのように英語を学んできたか、簡単に触れることとする。洋楽に触れ始めた当時、少ない小遣いやアルバイト代を上手にやりくりする必要があった。このため、より安い輸入盤を買うようにしていた。しかし、当時の輸入盤 LP や CD には歌詞カードが封入されていない場合が多かった。その歌を理解したければ、自分で歌詞を「聞き取る」ことが必要だった。つまりディクテーション作業である。筆者が聞き取りの作業の中で、習得したイディオムは数多くあった。調べる過程で自然に繰り返して口に出していたので、ディクテーションの作業とアウトプットの作業の繰り返しだった。これによって意図せずに自然と覚えることができた。こういった経験から、洋楽を通して英語を学ぶという学習方法は有効的であると考え、筆者は授業でも積極的に活用してきた。しかし、洋楽を活用しようとすればするほど、教えたい文法や構文などを即座に見つけ出せる、若い世代の学生達にも受け入れやすい楽曲を探し出せる、洋楽の歌詞のデータベース構築が重要であると気づく。これが本研究をはじめの原点である。

しかしながら、「今まで英語教育界が（洋楽を）娯楽媒体として扱い、本格的な授業活動として期待してこなかった（小林 2003）」ことや「（洋楽は）英語の教材としての価値は教師の間で十分理解されているとは言い難い（角山 2001）」との懸念があるように、英語教育会は洋楽の将来性に目を向けてこなかった。そこで、データベースを構築することで、洋楽が教材として決して劣らないこと、そして教材として将来性があることを証明したいとの必然性から本研究に至った。

よって、本研究の第一の目的はデータベース構築をすること。第二の目的は、洋楽の歌詞のデータベース構築をすることにより、洋楽が単なるレクリエーション的なものにならず、価値を高める一助となること、である。

2. 先行研究

それではまず洋楽を使った授業における、先行研究から始める。小林(2003)は洋楽を授業で使用する利点について、以下の7つに集約している。

1. 英語学習者に最も馴染み深い英語媒体であること。
2. 授業の雰囲気づくりができること。
3. 洋楽の音声に慣れることで、日常会話の音声変化や聞き取りが容易に感じられるようになること。
4. 語彙と発音の発達を促すことができること。
5. 歌詞に使われる表現やフレーズを何度も繰り返しをさせることで、表現の内在化が進み、定着しやすいこと。
6. 英語が不得意な学生に対しても、英語学習に対する動機づけを高めることができること。
7. インパクトとイフエクトの両方を提供してくれること。

補足説明となるが、2. は、授業開始時に洋楽を聞かせることによって、リラックスさせる働きがあり、居眠りを放置させない効果がある、としている。4. は、音声を認識させるためには、脳の「発話器官」で「発音させる」ことが大切であり、発音しなければ音声を認識することはできない、このため、語彙選択や空欄穴埋めのタスクをした上で曲を再生したり、合唱させたりすることが重要である、としている。6. では、教科書にも積極的に洋楽の聞き取りなどの章を設けること、正しい発音で歌うことができた学生に対しては評価対象にいれるべき、と提案している。7. は、英語学習者が英語に対する精神的な距離が縮まること（インパクト）を提供し、

そのイフェクト (効果) によって授業外で英語の歌詞の内容を把握しようとする習慣を身につけさせること, である。

その他の先行研究について, 階戸 (2014) は, 洋楽とディクテーション, プレゼンテーションを組み合わせることで「洋楽への関心」, 「英語への気づき」が生まれ, 協同学習への効果が見られた (階戸 2014) とし, 森 (2016) は, 洋楽を使用することで, 学生の学習意欲を向上させ, それがりスニング力の強化, 発音・語彙・表現の修得を促進している可能性が高いこと (森 2016) を示唆した。そして, Higuchi (2018) は, 洋楽を使用することで付随的語彙学習だけではなく, 英語学習に対する動機を高めたとの結果を報告した。牧野 (2012) は, (洋楽は) 英語に対する意欲を向上させるだけではなく, クラスの雰囲気をも明るくし, 学生の英語学習への緊張を取り去るという点で, 優れた教材との結論を述べている。数多くの先行研究が授業で洋楽を活用する利点を示している一方で, 洋楽が確固たる地位に置かれていない懸念についても記されている。小林 (2003) は, 洋楽の授業への導入について, 今まで英語教育界が娯楽媒体として扱い, 本格的な授業活動として期待してこなかったことを指摘し, その上で, 生涯の知的資産としてもっと認められるべきではないか, と提言している。また, 角山 (2001) は, 英語の教材としての価値は教師の間で十分理解されているとはいえない, と懸念を示し, 洋楽は Authentic な言語教材として, 通常の教材に劣らないこと, 更には言語教材としてそれ以上の効果を上げる可能性を秘めていると洋楽が教材としての価値に期待している。以上が先行研究である。また, 角山 (2001) の「洋楽は『Authentic な言語教材として, 通常の教材に劣らない』, 言語教材として『それ以上の効果を上げる可能性を秘めている』」という洋楽の教材としての期待に触発されたことが, 本研究の出発点でもある。

3. 洋楽歌詞データベース構築

3.1 データベース構築の方向性

既述の通り、先行研究において、角山（2001）は、洋楽は「Authenticな言語教材として、通常の教材に劣らない」、言語教材として「それ以上の効果を上げる可能性を秘めている」と示唆したことに対して、筆者自身もこれには共感し、期待に触発された。では、洋楽が単なるレクリエーション的なものにならず、いかにその価値を高められるのか、この項ではその方法と方向性を考えることとする。

3.1.1 音楽の特性：ストーリー性とユニーク性

洋楽が教材としての価値を高められる方法と方向性は何かを考えたとき、洋楽だからこそ学べるものとは何か、という疑問にたどりつく。考察した結果、洋楽には次の特性があることに気づく。短い時間・歌詞の中でストーリー性がありユーモア性を表すのに最適な言語・表現が詰まっていること。では、ストーリー性とユーモア性とは何であろうか。

2016年にBob Dylanがノーベル文学賞を受賞したことは記憶に新しい。Bob Dylanの受賞は世間を大いに驚かせ、沸かせた。歌手として史上初のノーベル文学賞を受賞したからである。山中（2017）は、Bob Dylanの受賞理由を「ベトナム戦争に対する反戦運動の象徴として使われたことで、文化的価値が生まれた一つの要因となった」と分析している。また同じく、以下の通りに記している。

「ディラン氏は言葉をメロディーに乗せることで、より多くの人々の心に届きやすくし、言葉の持つ力を、一層強いものにしました。歌詞であっても、詩であっても、文学であっても、これらを成り立たせるものは『言葉』です。ディラン氏はこの『言葉』の力を甦らせ、以降その力を弱める

ことがありません。『言葉』を甦らせたその功績こそ、ディラン氏がノーベル文学賞を受賞した最大の理由」であると述べている（山中 2017）。

つまり、Bob Dylan 本人は反戦運動の象徴として扱われたことに対して本意であろうと不本意であろうと、少なくとも多くのリスナーには確たるストーリーが音楽に乗せられてメッセージとして届けられたことは確かである。だからこそ反戦の象徴となり得たといえる。山中（2017）のいう、言葉をメロディーに乗せることで、より多くの人々の心に届きやすくし、言葉の持つ力を、一層強いものにした、とあるように、筆者はこの「言葉をメロディーに乗せることで、より多くの人々の心に届きやすくし」をメッセージが出来上がる前の前段階として考える。つまり、言葉によって映像化したストーリーができあがり、そのストーリーは今度「言葉の持つ力を、一層強いものにした」とあるように、言葉に強いインパクト性を与え、人々の脳裏にメッセージとして残ったと考える。つまり、洋楽が持つストーリー性が聞き手それぞれのメッセージへと変換され、そのメッセージがストーリーとともに永遠に脳内に残る、ということである。これこそが音楽の持つストーリー性の魅力である。語学を教える側として、音楽のもつメッセージ性よりも音楽の持つストーリー性がより重要であると考ええる。メッセージを受け取って行動喚起するのではなく、言葉からストーリーを汲み取って脳内に定着化させるのが目的だからである。このため、聞き手それぞれが全く違うメッセージを受け取ったとしても一向に構わない。重要なのはストーリーを受け取り、あるいはストーリーを作り出し、それが言葉と結びつくことである。言葉が脳内に永遠に残るために、このストーリー性を利用しようとする、これが本研究の狙いの一つである。

では、ユニークさとは何か。音楽は何も平和（例：U.S.A. For Africa “We Are the World”）や反戦（例：John Lennon “Imagine”）、政治（例：U2 “Sunday Bloody Sunday”）、宗教崇拝（例：Creed “Faceless Man”）や悪魔崇拝（例：Black Sabbath “N.I.B.”）、故郷（例：Michael Bublé “Home”）

や人生（例：Bruce Springsteen “The River”）や自然（例：R. Kelly “The World’s Greatest”）と真面目一徹で歌っているわけではない。中には、ダイエットすべきではないとのメッセージを歌詞に載せた歌（例：Meghan Trainor “All About That Bass”）やありのままのあなたがいい（Bruno Mars “Just The Way You Are”）と軽快に明るくストーリーを届けながら応援メッセージを送る歌もある。こうした歌の多様性は、ストーリー性の多様性と同じであり、しいては言葉の多様性にもなる。例えば、“There is always a ray of light at the end of every dark tunnel. (暗いトンネルの向こうには必ず光が見える)” という王道の proverbs を、“And I still see no light at the end of their tunnel (彼らのトンネルの向こうに光が見えてこない) (Channel Zero “No Light”) と変形させたり、“There’s no light at the end of the tunnel tonight Just a bridge that I gotta burn (今夜はトンネルの先には光がない。私が焼き払うしかない橋があるだけ)” (Kelly Clarkson “Gone”) と変化させている歌詞もある。元の proverbs が分からなければ、面白いとも思わないこれらの派生 proverbs。しかし、元の proverbs が分かっていると途端にユニークさが増す。言葉のユニーク性のみならず、音楽にはその時代の文化を映すユニークさもある。さらに例を挙げると、同じくお金について歌っている ABBA “Money Money Money” (1976) と Jessie J ft. B.o.B “Price Tag” (2011) を比較するだけでも価値がある。前者は「お金持ちは楽しいだろうな」と拝金主義の傾向にある歌詞であるが、後者は「全てをお金で評価するのっておかしくない？ 私は私」といかにも現代らしい歌詞内容となっている。このように、歌詞にはその時代の価値観が凝縮されており、その時代その時代のユニークさが織り込まれている。歌詞内容を比較するだけでも大変よい勉強となる。

以上が、洋楽の短い歌詞の中にはストーリー性があり、ユーモア性を表すのに最適な言語・表現が詰まっている、という理由である。そして、洋楽だからこそ学べるものとは何かと考えたとき、洋楽ではストーリー性を

利用し、ユーモア性に富む言葉を学ぶことができる。これらの言語は教科書では学ぶことはできない生き生きさがある。

3.1.2 生き生きとした表現 “vivid expressions”

生き生きとした表現とは具体的に何を指すか。これに焦点を絞ったとき、以下の記述に触発を受けた。Li, Hong & Sun, Tao (2011) による *100 Vivid Chinese Expressions* (英語・中国語併記) の序文において、以下のとおり記している。

“Learning a foreign language is very much like building a house. The foundation (pronunciation) is laid, the structure (grammar) put up, and the bricks (vocabulary) filled in. Yet, an architectural style (vivid expressions) has to be added to make it beautiful.” (Li, Hong & Sun, Tao 2011)

ここに述べられているのは、言語を習得するのは、家を建てるようなものであること。発音で基礎を築いて、文法で骨組みを固め、ボキャブラリーで外壁を作る。しかし、家がきちんと魅力的な家に見えるようにするには美しく施さないといけない、と記されている。つまり、語学習得は、より機知に富んだセンスの良い表現を学ぶことが最終目的である、ということがいえる。*100 Vivid Chinese Expressions* は中国語を学ぶ外国人のために作られた学習参考書だが、文頭に “Learning a foreign language...” と記されてあるとおり、中国語に限らず、どの言語の習得においても共通することと考える。もちろん、英語もしかりである。発音で基礎を、文法で骨組みを、ボキャブラリーで外壁を、と端的に伝えることは大学に限らず、既に小・中・高校での学習においても目指してきている。しかし美しく施す役割を担っているもの、つまり、言語を運用する際にプラスアルファとな

る vivid expressions を最終教育機関である大学で習得すること、これが非常に重要なことに気づく。

Li, Hong & Sun, Tao (2011) は “vivid expressions” を “proverbs and sayings” のことであるとしている。さらに確認していくと “proverbs and sayings” でも「ことわざ」に限定している。人々の英智の蓄積といえる “proverbs and sayings” と洋楽のストーリー性とユーモア性に富む生き生きとした言語表現、いずれも美しく施す役割を担う “vivid expressions” である。しかし、“proverbs and sayings” を単純に学ぶのであれば、巷にあふれる参考書から学べば済むことであり、わざわざ手間暇をかけて洋楽のデータベースを構築する必要もない。けれども、3.1.1 で例を挙げたように、洋楽から学べば、王道の “proverbs and sayings” のみならず、派生した “proverbs and sayings” をも学ぶことができる。派生した “proverbs and sayings” を参考に独自の “proverbs and sayings” を作りだすことができれば、生き生きとした英語表現の幅を広げるだけでなく、言葉にウイットを与え、話し手の人格にも洗練さをプラスしてくれ、発展した学習となる。洋楽と “proverbs and sayings” を融合させる価値や合理性はこの点に尽きるのではないかと考える。これが着目点となり、筆者は洋楽を教材としての価値を高めるには、また、洋楽のデータベースの構築には、洋楽歌詞内の “proverbs and sayings” に焦点を当てるべきとの方向性を見出した。

3.2 英語における “proverbs and sayings” の存在

上項では洋楽を教材としての価値を高めるには、また、洋楽のデータベースの構築には、洋楽歌詞内の “proverbs and sayings” に焦点を当てるべきとの方向性を見出した。しかしながら、ここでもう一つの疑問に突き当たった。それは、日本や中国語における “proverbs and sayings” のその定義と英語における “proverbs and sayings” の定義に違いはあるか、

ということである。“proverbs and sayings”の立ち位置が違えば、論考そのものが成り立たなくなるからである。そこで、アメリカとイギリスでの一般的な人々の“proverbs and sayings”に対する概念を探ることとする。

まずは *Longman Dictionary of Contemporary English* (1995) と *Cambridge Dictionary* (n.d.) を調べてみると、両辞書の“proverb”と“saying”についての定義は以下の通りであった。

表1 辞書における“proverb”と“saying”についての定義

| | <i>Longman Dictionary of Contemporary English</i> | <i>Cambridge Dictionary</i> |
|---------|---|---|
| Proverb | a short well-known statement that contains advice about life in general | a short sentence, etc., usually known by many people, stating something commonly experienced or giving advice: <ul style="list-style-type: none"> • The appetite, says the proverb, grows with eating. • [+that] There is an Arab proverb that everything you write or speak should pass through three gates: Is this kind? Is this Necessary? Is this true? |
| Saying | 1 a well-known short statement that express an idea most people believe is true and wise-compare PROVERB 2 as the saying goes used to introduce a particular phrase that people often say: One thing led to another as the saying goes. | a well-known wise statement that often has a meaning that is different from the simple meanings of the words it contains: <ul style="list-style-type: none"> • As the saying goes, “Don’t count your chickens before they’re hatched.” |

2つの辞書での定義に大きな違いを見受けられず、要約すると“proverbs and sayings”は人々が真実・賢明であると信じている考え方であり、人生への助言である、ということである。更にインターネットで検索すると、ESLや英語トレーニングの分野において10年以上の教歴がある Lindsay McMahon が立ち上げたウェブサイト *English and Culture Tutoring*

Services では、“proverb” と “saying” について次の通りに述べてあるのが確認できる。

“Proverbs and sayings that are commonly used are a great way to gather clues about cultural values and cultural norms in the United States. Of course, not all people in the U.S. have the same values because the U.S. is made up of so many different kinds of people. However, proverbs do show us patterns and common themes and they tell us what is important to a lot of people.” (McMahon 2011)

ここでは、“proverbs and sayings” は、人種の坩堝であるアメリカだからこそ、文化価値や文化基準に気づかせてくれる。ことわざは多くの人々にとって何が重要な事柄であるのかをまざまざと教えてくれるのである、としている。これは非常に面白い概念であり、多様性を受け入れるアメリカ社会ならではの概念に気づく。また、Peters (2016) は、“proverb” について以下のとおり述べている。

“Proverbs. They’re old-fashioned, folksy, pithy — and everywhere.”

“For a native speaker, the worst thing about a proverb is probably its overuse.”

“Generally, it’s an older saying without a known author that’s considered wise.”

つまり、“proverbs and sayings” は、時代遅れで民俗的ではあるけれども、いたるところにある、それは人々の生活に根付いたものであり、賢明さの現れとみなされている。加えて、Peters (2016) は、「ビジネスとことわざは様々な理由でナチュラル・パートナーである。ビジネスにおいて、時間

というものはお金と同じく貴重なものであると言えるからである」と *The Dictionary of Modern Proverbs* の編集者である Fred Shapiro の言葉を引用し、簡潔に伝えられる “proverbs and sayings” は多忙な現代人と親和性があることを挙げている。更に、Peters (2016) は、“proverbs and sayings” というのは、目新しいものではないが、時代を超越した太古の英知に触れることのできるもの、と作家 John Latham の言葉をも引用して述べている。

アメリカのように、多民族国家ならではの多様な価値観が存在している国は、共通の “proverbs and sayings” を学ぶことで、多様な価値観を一つにまとめてくれる基準や規範の役割を担っている。国によって “proverbs and sayings” の役割に多少の違いがあるものの、一般的な概念、すなわち人々の生活に基づくもの、太古からの英知の蓄積、賢明さの現れ、簡潔に多くを伝えられる、であることは国境を越えても変わらない。

“proverbs and sayings” の一般的概念が変わらないことから、筆者が洋楽を教材としての価値を高めるには、また、洋楽のデータベースの構築には、洋楽歌詞内の “proverbs and sayings” に焦点を当てるべきとの方向性が間違っていないことを確信した。それどころか、いくつもの時代を得てもなお、“proverbs and sayings” は「現代人と親和性がある」ということは、最終教育機関である大学で “proverbs and sayings” を学ぶ必要性を再度認識させられた。

3.3 “vivid expressions” の線引き

全ての疑問を記したところで、作業へと移る。“proverbs and sayings” は一般的には慣用表現・イディオム・ことわざを総称している。その線を引き出すことは難しいとされている。しかし、ことわざだけでも 2 万 5 千以上もあるといわれている英語の “proverbs and sayings”，これを一括りにしてデータベースを構築するのは、第一段階としては賢明とは言えない。こ

のため、本稿では、Li, Hong & Sun, Tao (2011) がいう “proverbs and sayings” がことわざであることに触発を受け、データベースの構築をまずはことわざに限定することとする。慣用表現・イディオムに関しては第二、第三の段階で引き続き行うこととする。なお、“proverbs and sayings” という表現では慣用表現・イディオム・ことわざを総称してしまうため、本稿ではことわざに限定し、以下これを “vivid expressions” と称することとする。

既述のとおりに定めた方向性から、データベースの構築および洋楽が教材としてその価値を高めるには “vivid expressions” に焦点を当てるべきとした。しかし、2万5千以上もあるといわれる “vivid expressions” をすべてデータベースに構築するのは無理がある。このため、“vivid expressions” を更にふるいにかけて吟味する必要があった。

線引きについて、当初は英検（2級以上）や TOEIC（500 点以上）の問題集などから使用頻度の高い順に探し出すことを考えていた。しかし、作業を開始するとすぐに、問題集などには “vivid expressions” の記載は少ないことに気づく。つまり、英検や TOEIC はあくまでも、基礎、骨組み、外壁といった端的に伝えることに焦点を当てた試験であるため、美しく施す役割を担っている vivid expressions の学びを重視していない。このため、“vivid expressions” の記載も少ない、ということである。それならば、英検や TOEIC とは関係のないアメリカの小学生はどのような “vivid expressions” を学んでいるのか、という疑問がよぎった。

「文化の知識継承や人々の相互理解を目的」に作成された、アメリカの小学生1～6年生向けの教科書シリーズ *What Your First Grader Needs to Know* (“First” の部分がそれぞれ、学年ごとに “Second”, “Third”, “Fourth”, “Fifth”, “Sixth” へとかわる) を確認すると、掲載されている “vivid expressions” は146フレーズであることが分かった (Hirsch 2014)。アメリカでは州ごとに多少の違いはあるものの、基本的に小学生は義務教

育内とされ、そして義務教育については以下のとおりに定めている。

To prepare children for citizenship（子供たちに米国市民になるための準備をさせること）

To cultivate a skilled workforce（高度な労働力を育成すること）

To teach cultural literacy（文化的リテラシーを教えること）

To prepare students for college（生徒に大学進学のための準備をさせること）

To help students become critical thinkers（生徒に批判的思考能力を身につけさせること）

To help students compete in a global marketplace

（生徒にグローバル市場での競争力を高める手助けをすること）

（Education Policy in the United States 2001）

我が国の義務教育についても確認したところ、文部科学省が「学校教育（特に義務教育）に関する主な提言事項」において、以下の項目が記載されている。

小学校教育段階及び中学校教育段階：

社会的自立に向けて、人間として、また、家族の一員、社会の一員として、更には国民として共通に身に付けるべき基礎・基本を着実に学習し定着させる。

- a. 小学校教育段階では日常生活に必要な各般の能力を養うことにより、社会生活を営むために必要な資質・能力の基礎を身に付けるとともに、自分の個性を発見する素地を育てる。
- b. 中学校教育段階では社会的自立のために必要な資質・能力の育成を図るとともに、生徒の興味・関心、能力・適性等の多様化に対応して、選択による学習を行う。

特に進学や職業選択の準備のため、自らの生き方を考えて行動する能力や態度及び主体的に進路を選択する能力を身に付けるとともに、その後の学習や職業生活を通じて一層伸張されるべき自己の個性を見いだしておくことが重要である。(文部科学省 1999)

これらを読む限り、日本もアメリカも初等教育を、社会的自立に向けて、共通に身に付けるべき基礎・基本の学習としている。つまり、初等教育が疎かになると、日常生活に必要な適応力を養うことができず、社会生活を営むために必要な資質や能力の基礎も身に付けられない、そして問題が生じ得る、と言い換えることができる。アメリカの「小学生」が学ぶ“vivid expressions”は、アメリカ社会において至極当然の必須学習であり、アメリカ社会や文化を理解する上でも最も基礎的な知識である。アメリカ人が学ぶ“vivid expressions”を学ぶ→更に一步踏み込んで、誰もが習う義務教育の中の“vivid expressions”を学ぶ→初めて多人種のアメリカの文化価値や文化基準を知ることができるのである。これは、海外留学する学生や将来海外で働く可能性のある学生にとって大変重要なことであり、考えを理解し、共通な話題を見出す一助となる。

これらの理由から、筆者は本研究での“vivid expressions”の更なる線引きをアメリカの小学生が学ぶものに限定する。この明確な線引きにより、教員個人の嗜好による偏りをなくし、有効な“vivid expressions”の選別、バラエティー豊かな楽曲を学生に提供することができる。

3.4 データベース作成とその方法

アメリカ人小学生が学ぶ“vivid expressions”に線引きしたことで、データベース作成を始める。

ネット上では、Lyrics. comをはじめ、Songsear, Azlyrics, Lyricsmode など歌詞を検索するサイト⁽¹⁾は数多くある。データベースを構築するにあ

たり、筆者はこれらのサイトを参考した。検索の利便性、検索インターフェイスの見やすさなどから、本研究では歌詞を検索するには Lyrics.com を主なツールとして採用し、その上で、BPM（音楽の1分間あたりのビート数）やポピュラリティなどを調べるために Musicstax, Tunebat, Songbpm を用いた。

これらのサイトを使った経験により、使う人の利便性を考慮した結果、本データベースでは次の13の項目を導入した。（1. タイトル, 2. アーティスト名, 3. 発表年, 4. vivid expressions 開始秒数, 5. 曲の長さ, 6. 全体の歌詞, 7. 人気度, 8. ダンサビリティ, 9. ポジティブネス, 10. BPM, 11. ジャンル, 12. 引用, 13. 動画サイトリンク）

項目は一見して他のデータベースと同じようだが、本データベースはあくまでも“vivid expressions”を抽出するためのものであるため、教員が教える際に短時間で“vivid expressions”を見つけられるようにと、「4. vivid expressions 開始秒数」では“vivid expressions”の開始位置を数字で表した。また、“vivid expressions”の該当する箇所を即座に聴くことができるようにと、「13. 動画サイトリンク」ではリンクの作成も行った。なお、学習データベースと無関係であろうと思われる「8. ダンサビリティ」と「9. ポジティブネス」は、先行研究から示唆を受けたもので、教員が選曲する際に、曲調がダンスサンプルであるか否か、明るい曲調である否かを判断するための目安である。いわば、クラスの雰囲気づくりに役立つ。また、Lyrics.comなどの一般的なデータベースでは、“vivid expressions”の検索をかけると、教材として相応しくない楽曲も数多くヒットしてしまう。しかし、本データベースでは、教材として相応しくない楽曲がヒットすることのないようにあらかじめ楽曲を精査している。これで、教員は意図的に楽曲から“vivid expressions”を抜き出す作業が格段に容易となる。

なお、教材として相応しい楽曲であるか否かの判断基準に関しては現行

ある教材を参考にしている⁽²⁾。

3.5 現在までの作業手順

既に述べたとおり，教科書シリーズ *What Your First Grader Needs to Know* (Hirsch 2014) に掲載されている“vivid expressions”は1年生から6年生まで全146個あった。本稿では，データベースを構築する上で問題点あるか否かを探るために1年生で習う10表現にのみ着目し，データベース化した。以下の表2が“vivid expressions”とその日本語訳である。

これらの“vivid expressions”をデータベース化するには，次の3段階（①“vivid expressions”のある楽曲を選出する。②学習に適した楽曲であるか否かを選別する。③データベース試作一覧表を作成する。）の手順に分けて行なった。以下が手順の詳細である。

表2 “vivid expressions”とその日本語訳

| | vivid expressions | 訳 |
|----|--|---------------------------------|
| 1 | An apple a day keeps the doctor away. | 一日一個のリンゴで医者いらす。 |
| 2 | Do unto others as you would have them do unto you. | あなたが人にしてもらいたいように，あなたの人にしてあげなさい。 |
| 3 | Hit the nail on the head. | くぎの頭を打つ，小さな的をうまく打つ。 |
| 4 | If at first you don't succeed, try, try again. | 最初は成功しなくても，何度でも挑戦しろ。 |
| 5 | Land of Nod. | 眠くてうとうとする。ノドの地。 |
| 6 | Let the cat out of the bag. | 袋の外にネコを出す。「秘密をもらす」「暴露する」。 |
| 7 | The more the merrier. | 数が多いほど楽しい。 |
| 8 | Never leave till tomorrow what you can do today. | 今日あなたが出来ることは，決して明日まで延期するな。 |
| 9 | Practice makes perfect. | 練習は完璧にさせる。 |
| 10 | There's no place like home. | わが家にまさるところなし。 |

① “vivid expressions” のある楽曲を選出

（表3）1にある“An apple a day keeps the doctor away.”をLyrics.comでExact Match（フレーズ完全一致）という条件に絞って検索すると多くの場合，“We couldn’t find any lyrics matching your query.”（あなたの条件にあてはまるものは探せませんでした）と表示される。ヒットするために、Within Lyrics（歌詞内で単語含む）に条件を変えると，“We’ve found 1,189 lyrics, 125 artists, and 50 albums matching An apple a day keeps the doctor away.”（1189での歌詞，124のアーティスト，50のアルバムで見つかりました）というようにヒットした楽曲が表示される。検索結果上位のヒット結果をみると，“apple”，“day”，“keeps”，“doctor”，“away”が表示され，前後に接続するフレーズの断片（チャンク）も確認

表3 アメリカの小学1年生が習う“vivid expressions”に一致した曲数
（テキスト表記順）

| | vivid expressions | Exact Match (フレーズ完全一致) | Within Lyrics (歌詞で単語含む) | アンダーバーを入れ、 a/the, 句読点を 除いて検索 |
|----|--|---------------------------|----------------------------|------------------------------------|
| 1 | An apple a day keeps the doctor away. | 0 | 1,189 | 18 |
| 2 | Do unto others as you would have them do unto you. | 0 | 44,307 | 7 |
| 3 | Hit the nail on the head. | 10 | 64,254 | 54 |
| 4 | If at first you don't succeed, try, try again. | 0 | 34,842 | 3 |
| 5 | Land of Nod. | 38 | 294 | 76 |
| 6 | Let the cat out of the bag. | 0 | 38,760 | 46 |
| 7 | The more the merrier. | 26 | 194 | 153 |
| 8 | Never leave till tomorrow what you can do today. | 0 | 88,394 | 0 |
| 9 | Practice makes perfect. | 74 | 37,177 | 380 |
| 10 | There's no place like home. | 86 | 87,930 | 365 |



図 1 Lyrics.com の検索結果

できる（図 1）。これによって、自分が探したい“vivid expressions”であるかどうかを短時間で判別できる。検索結果の下位になるにしたがって、ヒット結果に含まれる語が少なくなる。

Within Lyrics の条件で検索かけるとヒット結果が膨大になりがちである。該当する“vivid expressions”であるかどうかを逐一確認する必要がある。しかし、この検索方法では派生した表現も反映されるため、筆者が期待する機知に富んだユーモアのある表現に遭遇できる可能性を高める。

上記 2 通りの方法で“An apple a day keeps the doctor away.”以外の“vivid expressions”も検索試みたところ、5 つまでの短い単語であれば Exact Match の条件でもヒットするが、6 語以上の長いものはヒットしにくくなることに気づく。そこで、6 語以上の単語であってもヒットしやすいように、更に検索方法を変えてみた。a/the（不定冠詞／冠詞）と句読点を除き、単語と単語の間にアンダーバーを入れる。パソコン操作上、単語と単語の間にアンダーバーを入れると前後の単語に結びつきが生まれる。つまり、“apple_day_keeps_doctor_away”となる。この方法で検索を試みると Exact Match ではヒットしなかった 18 件のヒットが現れる。アンダーバーを入れるこの検索方法により、本研究で求める“すべての語が入っているチャンク”，つまり Exact Match（フレーズ完全一致）で検索するのと同じ効果が得られる。しかしこの方法では、Exact Match と同様、Within Lyrics（歌詞内で単語含む）で検索したような派生した表現が

みられなくなる。

それぞれの検索方法に利点と欠点があることから、Exact Match（フレーズ完全一致）と Within Lyrics（歌詞内一致）とアンダーバーを単語の間に入れて検索する方法も加えて、上位にヒットする曲を選出した。表5はそれぞれの検索方法で“vivid expressions”を検索したときにヒットした曲数を表している。

② 学習に適した楽曲であるか否かを選別

上記①の方法で選出した楽曲を一つ一つ確認し、次の項目に当てはまる楽曲を対象から外した。なお、1.の教材として相応しい楽曲であるか否かの判断基準や5.のBPM数値は現行ある教材の楽曲を参考し、基準を設けたものである。⁽²⁾ その他の項目については、括弧内を参照していただきたい。

1. スラングや過激な性的描写や暴力的な表現、ドラッグやアルコールを賛美するような表現が含まれているもの（学習には相応しい楽曲であること）。
2. 非英語曲であり、一部のフレーズにだけに英語を使用しているもの（英語の歌詞であること）。
3. 発表年代が記載されていないもの（すべての年代の英語学習者に適応できるデータベースを作成するため）。
4. カバー曲のように異なる歌手やグループによる重複曲。
5. 過度に激しいロック調の曲（BPMが103前後のアップテンポなポップスや軽めのロックを主に選定）。

その結果、“vivid expressions”それぞれに、3～10曲程度の楽曲が残った。

③ データベース構築試作となる一覧表の作成

上記②で選別された楽曲の項目（「3.4 データベース作成とその方法」の13項目を参照のこと）をLyrics.comやその他サイト⁽¹⁾から抽出し、これをエクセルで一覧表をつくる。

Lyrics.comからの抽出項目：1. タイトル，2. アーティスト名，3. 発表年，4. 開始位置（分・秒数）vivid expressions 開始秒数，5. 曲の長さ，6. 全体の歌詞，11. ジャンル，12. 引用。MusicstaxとTunebatとSongbpmからの抽出項目：7. 人気度（曲の再生回数などから測定された人気度），8. ダンサビリティ，9. ポジティブネス，10. BPM。13. 動画サイトリンクの項目については，楽曲それぞれの公式サイトからリンクを採用した。これらの項目の他に，スラング表現が確認される曲か否かを確認するためのExplicit項目も抽出した。最終データベースに採用された楽曲は最終関門を突破した精査された楽曲であるため，このExplicit項目が表記されることはない。（表は割愛）

3.6 歌詞の抽出作業から見てきたこと

Lyrics.comで表3の“vivid expressions”をそれぞれ「Exact Match（フレーズ完全一致）」と「アンダーバー，a/the，句読点を除いて検索」で検索したところ，特にヒット数の多かった“vivid expressions”は“Practice makes perfect.”と“There’s no place like home.”であった。一方，いずれの検索にも引っかからなかったのは“Never leave till tomorrow what you can do today.”であった。アメリカの小学1年生が習う“vivid expressions”は一般的に使用率が高いにも関わらず，ヒット数ゼロはどういうことか。1. 検索方法に問題があったのか，2. 単語の数に問題があったのか，3. ことわざそのものの特性からか，といった疑問が生じた。よって，以下の通り考察した。

1. 検索方法に問題があるか否かについて考察

全ての“vivid expressions”が同じ方法で検索を行ったため、検索方法による差異は生じるににくいと考える。

2. 単語の数に問題があったのか否かについて考察

ヒット上位：1位から5位までの“vivid expressions”の平均語数は5語であり、下位：6位から10位までの平均語数は8語である。ヒット数なしの最下位が9語、下から2番目と3番目がそれぞれ9語、11語。語数から考察すると、ある程度の文字数制限のある洋楽では、少ない語数で多くを物語れる“vivid expressions”を好んで使う傾向があり、このため8語程度の長さのあるものはリズムに乗せにくく、使用頻度が下がると考える。これは、Peters (2016) が述べたように、多忙な現代人にとっても洋楽にとっても、簡潔で多くを伝えられる“proverbs and sayings”には親和性があるといえる。

3. “vivid expressions”の特性がヒット数に影響を与えている否かについて考察

表3の“vivid expressions”を考察したところ、表4のような特性があると分かった。

ヒット数ゼロの“Never leave till tomorrow what you can do today.”の特性に目を向けると、人生の指針になる表現を学ぶことで、健全な精神を育む意図があると推測できる。「健全な精神を育む」という意図が暑苦しさに映ってしまって、洋楽では好まれないのか。そこで、同じ特性の“vivid expressions（表3の1, 4, 7, 8, 9, 10）”を確認した。その結果、ヒット数上位の1位の（3語）、2位の（5語）、3位の（4語）、いずれも「健全な精神を育む」という意図をもつ“vivid expressions”だと分かった（表5参照）。更に、7位の（8語）、9位の（9語）、10位の（9語）に目を向けても、やはり同じ意図だが、反対に下位にいる。つまり、“Never leave

表 4 “vivid expressions” の特性

| 特性 | 表 3 の番号 |
|---|----------------------|
| ・身近にある人・モノ・動物を使った表現が多い。 例：Apple, Bag, Cat, Doctor, Home, Nail (興味や関心を喚起する意図がある) | 1, 6, 10 |
| ・同じような構造の構文が少ないこと。 (様々な構文に触れることで、表現を豊かにする意図がある) | |
| ・学習・スポーツ・人生・健康維持に応用できる表現があること。 (人生の指針になる表現を学ぶことで、健全な精神を育むという意図がある) | 1, 4, 7, 8, 9, 10 |
| ・明示的な意味と暗示的な意味あること。 (教師が問い、生徒が考える表現がある) | 3, 6 |
| ・聖書にも書かれているフレーズや事柄があること。 (聖書に書かれている事柄で道徳的意味合いを持たせた表現である。) | 2, 5 |

till tomorrow what you can do today.”はその特性からヒット数に影響したとは考えにくく、やはり、「語数が多すぎた」と考えるのが妥当といえる。

一方で、語数が少ないにも関わらず下位に入ってしまった“Land of Nod (3 語・6 位).”の特性に目を向けると、宗教的な特性を持つ。同じく宗教的な特性を持つ“Do unto others as you would have them do unto you (11 語).”のヒット順位に注目すると、8 位とやはりこちらも下位だった。“Do unto others as you would have them do unto you.”は語数が多い。それゆえに、語数が多いことから下位にいるのか、それともその特性がゆえに下位にいるのかは判断し難い。しかし、語数が極端に少ないのにもかかわらずヒット数が少ないことを見逃してはならない。このことから語数に関わらず宗教的な特性を持つ“vivid expressions”は洋楽では歓迎されない傾向にある、ということができないのではないかと考える。けれども、ヒット数がゼロではないことから、特定の分野（宗教的な分野）においては好まれる傾向にあり、洋楽全体の絶対数からは少ないということがいえる。なお、宗教的な特性を持つ“vivid expressions”が洋楽で使用さ

表5 アメリカの小学1年生が習う“vivid expressions”に一致した曲数
(ヒット件数順)

| ヒット 件数順 | vivid expressions | 語数 | アンダーバーを入れ、 a/the, 句読点を 除いて検索 |
|------------|--|------|------------------------------------|
| 1 | Practice makes perfect. | 3 語 | 380 |
| 2 | There's no place like home. | 5 語 | 365 |
| 3 | The more the merrier. | 4 語 | 153 |
| 4 | Let the cat out of the bag. | 7 語 | 46 |
| 5 | Hit the nail on the head. | 6 語 | 54 |
| 6 | Land of Nod. | 3 語 | 76 |
| 7 | An apple a day keeps the doctor away. | 8 語 | 18 |
| 8 | Do unto others as you would have them do unto you. | 11 語 | 7 |
| 9 | If at first you don't succeed, try, try again. | 9 語 | 3 |
| 10 | Never leave till tomorrow what you can do today. | 9 語 | 0 |

れる頻度が下がるのは、宗教多様性の観点と商業的な観点から、より多くの楽曲を売り出すためには特定の宗教に限定する歌詞を避ける傾向にあるからではないかと考える。

以上の考察は現時点での推測でしかないものの、しかし、これは1年生のみならず、2年生から6年生が学ぶ“vivid expressions”でも同じ傾向にあるのではないかと筆者は考える。この推測が正しければ、洋楽で学び得る“vivid expressions”の特性を見いだせる可能性がでてくる。洋楽から抽出できる“vivid expressions”をアメリカの小学生が学ぶものに限定せずとも、洋楽から抽出できる“vivid expressions”である否かのある程度の目星を付けることができるようになる。

3.7 派生した“vivid expressions”から発展し得る授業スタイル

Within Lyrics（歌詞で単語含む）を条件に“vivid expressions”を検索すると、言うまでもなく、“vivid expressions”で使用される語数が多けれ

ば多いほど、ヒット数が多くなる傾向である。これが実に興味深い派生した表現を反映してくれた。以下に数例を表示することとする。

派生した表現：

表6 派生した“vivid expressions”の例

| An apple a day keeps the doctor away. | | 楽曲名 |
|---------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | An Apple a day Won't keep the doctor away (一日一個のリンゴを摂ったとしても、健康的にはならない) | “An Apple a Day” Lyrics |
| 2 | You know an apple a day Won't keep my troubles away (一日一個のリンゴを摂ったとしても、トラブルは避けられない) | |
| 3 | It takes an apple a day to keep the doctor away (医者を迎え入れるには一日一個のリンゴが必要) | “Anna Marie” Lyrics |
| 4 | It takes a whole lot less to make my baby stay (あの娘を留まらせておくには《リンゴだけでは》全く足りない；リンゴを摂ると医者いらずになるけれど、彼女にリンゴを与えても彼女を満足させられない) | |
| 5 | Just a little bit of you every day Will surely keep the doctor away (あなたを毎日少しだけ、きっと医者がいらなくなる) | “Just a Little Bit of You” Lyrics |
| 6 | Eat an apple everyday An onion keeps everyone away (リンゴを毎日食べよう、玉ねぎでみんなは離れていく) | “Thanks For The Memory” Lyrics. |
| 7 | Eat an apple everyday The doctor has gotta keep away (リンゴを毎日食べよう、医者は近寄らないでくれ) | |

機知の富んだ正統派な“vivid expressions”とは異なり、これらの派生表現を見ると、皮肉的な表現や諧謔的な表現、暗示的な表現と様々である。下らないように思われてしまう派生“vivid expressions”も実は教材として非常に高い可能性を秘めている。次に、上記の派生“vivid expressions”で展開し得る授業方法例を紹介する。

上記表 6 の 1 と 2 における可能な授業展開：

英語のアイロニカルな表現の確認。アイロニカルな表現とは、わざと反対のことを述べて、楽しむ目的を含むため、冗談めいた皮肉のことである。シニカルは否定的な意味合いがあるが、アイロニカルはユーモアのある言葉としてとらえると良いことを伝える。その上で、機知の富んだ正統派“vivid expressions”を真っ向から否定する形をとるのが典型的なアイロニカルな表現であることを伝え、紹介する。

正統派：“There is always a ray of light at the end of every dark tunnel.”

派生表現（アイロニカル表現）：

“There’s no light at the end of the tunnel tonight (“Gone” Lyrics)

文法の確認から、語句の置き替えへと展開し得る。

“An apple a day keeps the doctor away”

（“人／物+keep+人／物+形容詞 or 名詞”）の下線部を別の語などに置き換えて、学ばせることも可能である。

“An apple a day”を“An apple per day”に変更することが可能であることを伝える。

上記表 6 の 3 と 4 における可能な授業展開：

“An apple a day...” との同意味の It takes 構文の歌詞も確認。

“It takes + 名詞 + to do” の不定詞用法を学ばせることが可能。

また、同時に “It takes+ 人 + 時間 +to do” の用法も確認できる。

上記表 6 の 5 における可能な授業展開：

“just a little bit” のニュアンスを確認。

“An apple a day” の代わりに、“Just a little bit of you everyday” と人物にも置き換えることができること（人物をリンゴに見立てている表現、暗示的な表現であることの説明）。

明示的・暗示的な意味の表現を確認させることができる。

更には、Bob Dylan の “Like a Rolling Stone” (“Like a Rolling Stone” Lyrics) を紹介し、正統派 “vivid expressions” である “A rolling stone gathers no moss” を紹介する。イギリスでは「転がる石には苔が生えぬ」というネガティブな意味を持つこの “vivid expressions” はアメリカでは「流水は腐らず」というポジティブな意味を持つ。このため、“Like a Rolling Stone” の一節については様々な解釈がされていて（りりっくす 2018）、両方の意味を暗示しているといわれていることを紹介できる。

上記表 6 の 6 と 7 における可能な授業展開：

ユーモアのある表現として紹介できる。

have/has gotta... などの口語表現の紹介。

has gotta keep away（近寄らない、離れていく）の意味確認をした後に、have to と have got to のニュアンスの違いを、学ばせることが可能。

上記の例のように、派生“vivid expressions”によってさまざまな授業スタイルに発展し得る。派生した“vivid expressions”の文法構造に触れることで、無意識に正統派“vivid expressions”の文法構造にも着目することができるようになり、無理なく定着化を図ることができる。更には通常の教材では決して触れることのできないアイロニカル表現や明示的・暗示的な表現、ユーモアのある表現に繰り返し触れ、意識（訓練）することで、学生自身もウイットに富む表現が作れるようになると信じている。洋楽が普通の教材として決して劣らない、それどころか、言語教材としてそれ以上の可能性を秘めているというのはこのためである。小話であれば、上記の授業展開一つで十分であろう。しかし、一つの正統派“vivid expressions”に対していくつもの派生した“vivid expressions”を紹介できれば、90分おろか105分間授業でも時間が足りないほどであろう。上記は、派生した“vivid expressions”を中心に試みた授業展開だが、正統派“vivid expressions”に着目すれば、授業展開は更に広がる。例に挙げるのであれば、いくつもの異なる楽曲から同一の正統派“vivid expressions”を学生に提示することで“vivid expressions”を使う場面・シチュエーションを学習することができる。また、正統派“vivid expressions”と日本のことわざの比較も可能であろう。それほど、洋楽を使った授業展開には将来性があると考ええる。このためには、データベースの構築によってより多くの正統派・派生した“vivid expressions”を集めることは必須である。

4. おわりに（今後の方向性・展望）

本研究は、洋楽は教材として成立しないことが前提にある今の風潮と概念に対して、筆者はデータベースを構築することで、洋楽が教材として決して劣らない、将来性のあるものだを証明したいとの必然性から始まっ

た。

3分間程度しか時間を要しない洋楽だが、ストーリーがあり、機知に富んだユニークな表現がある。洋楽のストーリー性の魅力は、生き生きとした機知に富んだユニークな表現を無意識に脳内の内在化・定着化させることであり、筆者はこれを語学学習に利用しようと考えている。

機知に富んだユニークな表現とは何かと考えたとき、筆者は“vivid expressions”に着目した。洋楽からであれば、王道の正統派“vivid expressions”のみならず、派生した“vivid expressions”をも学ぶことができる、これが着眼点だった。これまでは、下らないと思われてしまった派生した“vivid expressions”だが、実は教材として高い可能性を秘めている。派生した“vivid expressions”は様々な授業に発展し得るからだ。派生した“vivid expressions”を通じて、当然のことながら正統派“vivid expressions”を無意識に学ぶことができる。更には、訓練を通じて、独自の“vivid expressions”を作り出すことができれば、英語表現の幅は格段と広がり、学習者の言葉にウイトを与え、話し手の人格に洗練さをプラスしてくれる。派生した“vivid expressions”により授業が発展した学習となる。このため、洋楽と“vivid expressions”の融合は非常に合理的であると考えるとともに、洋楽は確実に将来性のある教材となり得ることを確信する。

なお、実際にデータベースを構築することで、洋楽は、少ない語数で簡潔に多くを物語れる“vivid expressions”を好む傾向があることが明らかになった。また、“vivid expressions”自体が持つ特性（例：宗教的な特性）によっては、語数に関係なく、洋楽での使用頻度が下がることも分かってきた。使用頻度の低い“vivid expressions”の特性が分かれば、洋楽で学び得る“vivid expressions”の特性を見いだせる可能性がでてくる。将来、教員が学ばせたいと思う“vivid expressions”が洋楽で学ぶのに適したものであるかどうか見分ける一助となるであろう。よって、データ

ベースの構築を通じて、引き続き推測の考察・立証を行っていく予定である。

なお、Peters (2016) が既述した記事 “We need proverbs because they reflect who we are” では、“There is always a ray of light at the end of every dark tunnel. (暗いトンネルの向こうには必ず光が見える)” を意図的に派生させ、“There’s always another proverb at the end of the tunnel. (トンネルの向こうには必ずもう一つの proverb が見える)” とユニークさと余韻を残しつつ、機知に富んだ表現で締めくくっている。機知に富んだ表現とは何か。それはまさに Peters (2016) が提示したように、正統派 “vivid expressions” を派生した “vivid expressions” に作り替えられる能力であろうと考える。データベースの構築により、派生した “vivid expressions” を集めることで、学生も近い将来機知に富んだ表現を作り出せることを確信している。

〈注〉

- (1) 本研究で採用した歌詞検索サイト

Azlyrics (<https://www.azlyrics.com>), Songbpm (<https://songbpm.com/>), Songsear (<https://songsear.ch>), Lyrics.com (<https://www.lyrics.com>), Lyricsmode (<https://www.lyricsmode.com>), Musicstax (<https://musicstax.com/>), Tunebat (<https://tunebat.com/>)

- (2) 本研究を始めるにあたり、洋楽を使った授業の現状を探るために、筆者は、すでに教材として出版された教科書のタスクや楽曲の分析をしていた。

分析するにあたり、筆者は洋楽や洋楽アーティストをテーマにした大学向けの教科書を計 20 冊入手した。一番古いものの初版の発行が 1995 年、最新のものは 2020 年のものだった。これらの教科書のタスクの種類を整理し、楽曲の傾向を提示するためには、洋楽を題材とする教科書の定義とは何かを考える必要があった。そこで以下の基準を設けた。

第一に「洋楽そのものを聴かせる教科書であること」

第二に「歌詞そのものを見せている教科書であること」

歌を聴かせない、歌詞が教科書に掲載されていないものは、歌詞を取り扱う本研究には適さないということで定義から外した。

選別によって残った 15 冊で使用されていた楽曲にはどのような傾向があるかをみたところ、全 237 曲中 21 曲が民謡や国歌だった。更にこれを除いた計 216 曲をみていく。「I Don't Want To Miss A Thing」, 「I Want It That Way」, 「I Just Called to Say I Love You」, 「Yesterday Once More」の 4 曲がそれぞれ異なる 4 冊の教科書で使われていることが分かり、これらの楽曲は教材として好まれる傾向が分かった。

更に分析していくと、次のことが分かった。

- ・教科書で使用されていた洋楽はバラードよりもアップテンポの曲（80～100BPM）が多く、これはリラックスしたいときの心拍数よりも若干速めの速さであること。
- ・楽曲の年代別を言えば、1990 年代以降の曲が一番多く、これは教科書や教科書制作者があえて古すぎない、若者の耳にもとつきやすい楽曲を意識的に選定している可能性が高いということ。
- ・80 年代の楽曲が少ないことの背景をみると、教科書で使用されていた洋楽は過激な性的描写や暴力的な表現、ドラッグやアルコールを賛美するような表現を含む作品が意図的に避けられたと考えられること。

これらのことから、授業に使用する曲を教員個人が選定する際には、BPM が 103 前後のアップテンポな曲、そして若者にとって懐メロのような敢えて古すぎない楽曲を、過激な性的描写や暴力的な表現、ドラッグやアルコールを賛美するような表現が含まれない楽曲を選定すれば、より教科書に近づくことのできる無難で問題ない教材をつくることができると考える。

参考文献

- 角山照彦（2001）「英語教育における音楽教材の活用：音楽と異文化トピックを組み合わせた総合教材『ポップスで学ぶ総合英語』の開発」『広島文教女子大学紀要』第 36 号. 9-20.
- 小林敏彦（2003）. 「洋楽を活用したリスニング活動」『小樽商科大学人文研究』第 105 号. 81-121.
- 階戸陽太（2014）「洋楽を用いたディクテーションとプレゼンテーションを組み合わせたリスニングの実践：協同学習を取り入れた授業の中で」『中部地区英語教育学会紀要』第 43 号. 213-220.
- 武井昭江（編）（2002）『英語リスニング論』. 河源社. 東京.
- 牧野眞貴（2012）「英語リスニングにおける洋楽聞き取りの効果検証 ② 英語に苦手意識を持つ大学生を対象として」『リメディアル教育研究』第 7 号. 265-275.

- 森貞 (2016) 「洋画・洋楽を用いた英語教育」『福井工業高等専門学校研究紀要, 自然科学・工学』第 49 号, 253-266
- 文部科学省 (1999). “義務教育 (学校教育) の意義・目的に関する提言”. 学校教育 (特に義務教育) に関する主な提言事項. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/04053101/007/001.htm, (参照 2021-09-01).
- 山名克弥 (2017) 「ノーベル文学賞受賞! ボブ・ディランの歌詞の文学的価値に迫る」. 幻冬舎ルネッサンス新社.
<https://www.gentosha-book.com/column/column253/>, (参照 2021-12-06).
- りりっくりすと. (2018). 「Like a Rolling Stone - Bob Dylan 曲の解説と意味も」
<https://lyriclist.mrshll129.com/bobdylan-like-a-rolling-stone/>, (参照 2021-12-06).
- Cambridge University Press. (n.d.). Proverb & saying. In *Cambridge dictionary*. Retrieved December 6, 2021, from <https://dictionary.cambridge.org>
- Education Policy in the United States*. (2001). Retrieved September 1, 2021, from https://web.archive.org/web/20140412082515/http://www.pbs.org/kcet/publicschool/get_involved/guide_p2.html
- Higuchi, A. (2018). Second language vocabulary learning: Whether western music is effective for incidental vocabulary learning. *Studies in language and culture* (27), 1-22, 2018-12.
- Hirsch, E. (2014). *What your first grader needs to know: Fundamentals of a good first-grade education*. New York: Bantam Books Trade Paperbacks.
- Li, Hong & Sun, Tao. (2011). *100 Vivid Chinese Expressions*. Peking University Press: Beijing.
- Longman Dictionary of Contemporary English*. 3rd Edition. (1995). Longman Group. Ltd.
- McMahon, L. (2011). *American culture and language - Famous proverbs and sayings* Retrieved December 6, 2021, from <http://www.englishandculture.com/blog/bid/57194/American-Culture-and-Language-Famous-Proverbs-and-Sayings>
- Peters, M. (2016). “We need proverbs because they reflect who we are” in *WORKLIFE*, BBC. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.bbc.com/worklife/article/20161117-we-need-proverbs->

because-they-reflect-who-we-are

参考歌詞

- All About That Bass Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/31580759/Meghan+Trainor>.
- An Apple a Day Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved June 28, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/3442921/Aqua>.
- Anna Marie Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved June 28, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/23186293/Whiskey+Myers.1>
- Faceless Man Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/2955046/Creed>.
- Gone Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/9599288/Kelly+Clarkson>.
- Home Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/7502477/Michael+Bubl%C3%A9>.
- Imagine Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/21194100/John+Lennon>.
- Just a Little Bit of You Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved June 28, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/15550321/The+Jackson+5>.
- Just the Way You Are Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/23432647/Bruno+Mars>.
- Like a Rolling Stone Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/29065282/Bob+Dylan>.
- Money, Money, Money Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/24169585/ABBA>.
- N.I.B. Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/20506/Black+Sabbath>.
- No Light Lyrics. (n.d.). <https://genius.com>. Retrieved June 28, 2021, from <https://genius.com/Channel-zero-no-light-at-the-end-of-their-tunnel-lyrics>
- Price Tag Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/23109400/B.o.B>.
- Sunday Bloody Sunday Lyrics. Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/360205/U2>.
- Thanks For the Memory Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved June 28, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric-lf/24115934/Slade>.

The River Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/14616140/Bruce+Springsteen>.

The World's Greatest Lyrics. (n.d.). Lyrics.com. Retrieved December 6, 2021, from <https://www.lyrics.com/lyric/6089195/R.+Kelly>.

[付記]

本稿は令和2年度言語文化研究所助成による成果の一部である。

(原稿受付 2021年10月27日)